

茂神社。英太郷加茂村鎮座。舊傳云。往古以來山城賀茂御厨也。故勸請云。』と見えるもので、今は加茂社と稱する。

**アカダキ** 赤瀧 能美郡大杉地内の瀧で、上大杉から東南六軒に在る。高さ六米。

**アガタゴウ** 英多郷 加賀郡の古郷名。和名抄に江多と訓するものは、阿賀多とすべきを誤つたものであらう。

**アガタゴウ** 英田郷 河北郡に屬し、藩政時代では舟橋・能瀬・頌家・指江・狩鹿野・多田・御門・上山田・下山田・上矢田・下矢田・中山・種・興津・小熊・菩提寺・池ヶ原・谷内・加茂・氣屋の二十ヶ村を含んでゐた。

**アガタコジロウ** 英田小次郎 ↓アガタミツイへ 英田滿家。

**アガタシヨウ** 英太庄 河北郡に在つた。後愚昧記永徳元年七月一日に、『梶井門跡領内江州坂田保賀州英太庄清閑寺別當職等事云云。』とある。

**アガタシヨウ** 縣庄 ↓ミナミアガタシヨウ 南縣庄。

**アガタジロシロウ** 英田次郎四郎 石清水舊記抄應永七年五月十八日富樫昌家の判書に、『長野一針兩村事嚴密致其沙汰可令遊行石清水八幡宮之雜掌也云々。』として、英田次郎四郎宛所のものがある。次郎四郎の何人であるかは明らかでない。

**アカダニ** 赤谷 能美郡別山の西北なる溪谷で、その水柳谷に注ぐ。(地圖に柳谷の上流に柳谷と記するものは赤谷の誤で、その無名の支流が柳谷である。)

**アカダニ** 赤谷 能美郡白峰の部落から西方に在る溪谷で、その水牛首川に注ぐ。

**アカタニ** 赤谷 能美郡白峰のうちの小さい字。

**アガタホ** 英田保 應永七年十一月十三日附畠山基國在判の執達狀に、『加賀國倉月庄同國英田保内氣屋村事云々。』とある。又尊卑分脈に加賀國南英田保見え、應安四年には富樫介高安加賀國北英田保氣屋・領家の地頭職となることもある。

**アカダマ** 赤玉 ↓シンキョウガン 神教丸。

**アガタミツイ** 英田滿家 通稱小次郎。足利義滿に仕へた。富樫謙に、『富樫介氏春二男英田小次郎滿家、明徳二年十二月晦日於内野討死、廿九、法名祖妙。』と見える。

**アガタミナミホ** 英太南保 河北郡に在つた。何事記録延徳二年九月廿六日に、『梶井宮雜掌申加賀國英太南保三ヶ村事云々。』と見え、後世英田郷内に能瀬村がある。

**アカツチ** 赤土 石川郡大野庄に屬する部落。明治中鷲森村と合併して、神合と改めた。

**アカツチカブラ** 赤土蕪 石川郡赤土の蕪は名産とせられた。萬治二年には藩侯の食料として江戸まで送つた記録がある。

**アカドウヤマ** 赤堂山 ↓アカン 石川郡と越中西礪波郡との間にある山。高さ一〇四六米。山體石英粗面岩。

**アカネゾメ** 茜染 ↓アカネヤリエモン 茜屋理右衛門。アカネヤセツサイ 茜屋雪齋。

**アカネヤシヨウジ** 茜屋小路 金澤の舊町名。茜屋理右衛門の住宅の横町で、その茜屋の家腰から茜屋橋の爪までを茜屋小路と呼んだのである。元祿六年の土帳に、『中村平六堅町あかねや町』とあつて、その頃は茜屋町と

も稱したのであらう。明治四年四月戸籍編成の際里見町に屬せしめた。

**アカネヤセツサイ** 茜屋雪齋 但馬出石の人。通稱太右衛門。享保五年見理右衛門の歿後加賀藩に聘せられ、十一年十二月金澤に來り、邸地を觀音町に賜ひ、田中氏を稱することと許されて茜染に従事した。十五年十月雪齋六十二歳で歿し、養子理右衛門はその業を廢した。

**アカネヤバシ** 茜屋橋 金澤の舊茜屋小路と柿木畠との境なる倉月用水川に架けた橋。舊傳に、昔茜屋理右衛門が茜染を造つた頃、此の橋下で染物を洗つたから茜屋橋とも茜橋とも呼んだと。そのさきには中村刑部の邸宅があつたので刑部橋ともいはれた。

**アカネヤリエモン** 茜屋理右衛門 但馬國出石の人。兄筒井長右衛門は出石城主小出修理亮の扶持人であつた。理右衛門延寶二年九月前田綱紀の召に應じて金澤に來り、十人扶持、銀十枚を給せられ、邸地を城下堅町に賜はつて茜染の業に従つた。享保五年六月六十歳で歿。

**アカハ** 阿川 ↓アコ 羽咋郡神造庄に屬する部落。

**アカバタケ** 赤畑 鳳至郡當目のうちの小さい字。

**アカバタケヤマ** 赤畑山 鳳至郡當目の小さい字赤畑から東北にある山、高さ三二一米。山體第三紀層。

**アカハマ** 赤濱 河北郡倉月庄に屬した舊邑名。康暦二年六月二日附左衛門佐の執達狀に、『加賀國倉月庄内松寺・赤濱兩村之事云々』と見える。

**アカハマハチマンシヤ** 赤濱八幡社 河北郡東蚊ヶ爪に鎮座し、延寶の由來書には赤馬場惣社八幡宮に作る。明治四十年五月同地の須岐神社に併合せられた。

**アカホギジノク** 赤穂義人録 二冊。室鳩巢著。漢文を以て大石良雄等復讐の顛末を記する。鳩巢當時金澤に在つて、元祿十六年の冬初めて稿を成し、後少しく改めたが、尙誤謬あるを免れなかつた。然るに門下小谷繼成が安藝侯淺野氏夫人の賤臣となつて同邸に在つたから、實説を聞いて報告した爲、再び訂正を加へ、寶永六年に全く脱稿した。

**アカホギジノク** 赤穂義人録後語 一冊。寶永六年室鳩巢の赤穂義人録が成つた時、金澤の門人與村脩進・與村忠順・青地齊賢・青地禮幹・小谷繼成・石黒知幾・小寺達路・松崎禮和・佐々木定明・稻垣秀堅・大河原長發・佐藤弘道・坂井由言・山科元徳・大地昌言等の文又は詩を得、大地昌言をして之を一巻に纏めしめたものである。

**アカマキコヤマ** 赤驢木古山 ↓アカマツ 石川郡の東南に在つて、越中に跨る。高さ一五〇三米。山體石英粗面岩。登路倉谷から一二千餘、二又から一六千餘。

**アカマツマサノリ** 赤松政則 通稱次郎、後伊豆守。赤松滿祐の弟義雅の孫。文安四年五月富樫成春とその叔父泰高とは、各加賀半國を領有する條件を以て、從來の争鬭を止めた。然るに長祿二年に至り、將軍足利義政は、更に加賀半國を備前・伊勢の一部と共に、赤松政則に與へることにした。それは政則の臣が先に大和吉野の奥北山から神璽を奪還し奉つたその恩賞にあつたのである。この加賀